

SDGs推進円卓会議進捗管理・モニタリング分科会（報告）

令和2年11月27日
SDGs推進本部事務局
総務省政策統括官（統計基準担当）

1. 11月18日にオンライン形式で開催されました。円卓会議構成員8名及び代理4名（有馬構成員、稲葉構成員、大西構成員、蟹江構成員、田中構成員、宮園構成員、三輪構成員、元林構成員は構成員が出席。近藤構成員、春日構成員、二宮構成員、山口構成員は代理）が出席しました。政府からは、総務省、外務省の他、内閣府地方創生推進事務局、内閣府国際平和協力本部事務局、警察庁、金融庁、消費者庁、財務省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、環境省、防衛省が出席しました。
2. 蟹江構成員（調整役）及び外務省から冒頭挨拶した後、総務省がグローバル指標の概要を発表し、出席者間で約45分間の意見交換を実施しました。意見交換の中で、稲場構成員・大西構成員・三輪構成員による発表も行われました。次いで、経団連による「第2回企業行動憲章に関するアンケート調査結果」の発表を経て、引き続き出席者間で意見交換を実施しました。最後に蟹江構成員の締めくくり発言で閉会しました。
3. 本分科会で出席者から出された主な意見は以下のとおりです。
 - 途上国のみが対象となっているターゲットに関し、先進国である日本は公表しないと一律に対応するのではなく、他で公表されているような既存の指標は、公表を検討すべき。
 - データがないとされている指標に関し、プロキシ指標を既存の統計から検討すべき。
 - アクションプランにおいて、現状では施策とゴールの関係性が不明確。
 - 中長期的には円卓会議目標設定について議論していくべき。
 - Future Earthのような科学者グループとの連携やビッグデータの利用などテクノロジーのモニタリングへの活用を進めていくべき。
 - プロジェクトベースのアウトカムの測定についての意見交換も有意義。

（了）